

# さわって

สมาคมมิตรภาพ ไทย. ชาอิตามะ

2016年11月  
35号

発行

埼玉・タイ王国友好協会事務局  
〒350-1188 川越市田町32-12  
武州ガス株内 ☎049-247-5428

埼玉・タイ王国友好協会会報

URL: <http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

# 埼玉王

## プミポン

### 国王陛下

### ご崩御



10月13日午後、タイ王室のプミポン・アドゥンヤデート国王陛下（88歳）がご崩御されました。

1946年6月に国家元首として即位して以来、国民から絶大な支持と尊敬を集め、タイ社会の安定の要として存在感を發揮されていきました。

在位期間は70年を超え、世界の現役の国家元首の中で最長でした。

プミポン国王陛下は日本の皇室との関係も深く、日本とタイ王国との友好関係の発展に多大なる貢献をされました。

当協会よりタイ王国大使館バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使へ弔電をお送りいたしました。心より哀悼の意を表します。

# 第18回総会・懇親会開催

## 駐日タイ王国特命全権大使講演

去る7月12日に、埼玉・タイ王国友好協会の第18回総会が川越東武ホテルで開催され、約100名の出席がありました。平成27年度事業報告・同収支決算、平成28年度事業計画案・同予算案の2議案が上程され、いずれも全会一致で承認されました。

総会后、バンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使が「日タイ修好130周年のこれまで、現状、そして今後」をテーマにご講演Ⅱ2面参照Ⅱ、出席された会員の皆さまは熱心に聞き入っていました。

当協会では、設立以来民間レベルの「草の根外交」を推進するため、これまでに8回の教育関連施設の建設・寄贈を行ってまいりました。

このような取組みは、特に国の支援が届きにくいタイ北部の山岳地帯に展開してきたことから、埼玉県とタイ王国との友好に一定の成果をあげることができました。しかしながら、タイ北部の山岳地帯の教育施設では自然・生活環境等が厳しいことから、優秀な指導者の確保・定着に困難をきたしています。

この課題を解決するため、今年度の事業計画より新たな取り組みとして、過去に



▲総会での新たな人材育成支援の説明



▲懇親会で大使閣下ご夫妻（中央）と交流を深める出席者の皆さま

建設・寄贈してきた教育施設の卒業生等の中から、将来タイ北部の教育関係の仕事希望する高校生・大学生を対象に、学費および生活費の一部を助成するという人材育成支援が承認されました。

また、今年度も引き続きタイ王国大使館に関わる行事に協力・参加し、友好協力事業をさらに推進していくことを確認しました。

# バンサーン・ブンナーク 駐日タイ王国特命全権大使講演

「日タイ修好130周年のこれまで、現状、そして今後」



▲講演するバンサーン・ブンナーク駐日タイ王国特命全権大使

始したのは129年前であり、1887年に私の先祖のポー・ブンナークが「日タイ修好宣言」の調印を行うため来日しました。

また、両国の交流は600年前の日本の琉球王国とタイのアユタヤ王朝の時代からあり、歴史に残る関係の証を挙げてみると、まず沖縄県名産の泡盛があります。泡盛は、琉球貿易が盛んだった14世紀中頃から製造され始めたとされています。シャムの交易船が琉球に赴き交易をした際、土瓶に貯蔵したラオロン（タイの廊酒）を持ち込んだようです。

また、アユタヤ都の東南地区には、貿易商、被雇用者、傭兵隊として多くの日本人が移り住みました。静岡県出身の山田長政は「日本義勇軍」を率いて活躍し、アユタヤ時代の王様より欽賜名を授かりました。

このような長い歴史のもと、タイと日本は王室・皇室から両国民まで多様かつ親密な関係で

結ばれており、2011年の東日本大震災とタイの大洪水の際にはお互い真摯に助け合い、今年4月の熊本地震では、タイ大使館から職員を現場に派遣し、タイから熊本県と日本赤十字社へ義援金を送呈いたしました。

日本はタイにとって第1位の投資国、上位の貿易相手国であり、タイに駐在する日本人は約5万人、タイへ進出している日本企業は約7000社あります。また、日本はタイ人の第1位の観光先であり、日本人のタイ観光客も増加しています。今年5月に代々木公園で開催された「タイ・フェスティバル」は、日本国内で最も規模が大きい外国のフェスティバルとなりました。来年2017年9月26日には、「日タイ修好宣言」調印から130周年を迎え、様々な記念イベントを開催する予定です。

経済面では、タイのメコン地域のハードウェア（インフラ）とソフトウェア（規制）の開発に対して、日本のパートナーとしての役割をより積極的に果たしたいと考えています。東西経済回廊を拡大しカンボジア・タイの国境をつなげていく計画があります。タイはASEAN大陸の中心で、日本のASEAN

への扉として良い位置にあり、中国・インドに次ぐ6億人の人口を持つ世界第3位の巨大市場となります。

タイと日本は長い付き合いの友人のような親密な関係にあり、埼玉・タイ王国友好協会は、日本とタイの愛の糸、絆の一助です。今後も両国の発展のために共に歩み、130年もの長きに渡り咲き誇ってきた関係のように、持続的な関係を継続していきたいと存じます。

## 第18回総会 会長挨拶

### 日本とタイの架け橋となる人材の輩出へ



会長 原 敏成

当協会は、埼玉県とタイ王国の友好関係の進展を図ることを目的として、平成11年3月16日に設立され、今年で17年目を迎えました。

会員数は法人会員104件、個人会員187人になっており、多くの皆さまに当協会の趣旨にご賛同いただいておりますことに、心より御礼申し上げます。

設立以来、当協会では会員の皆さまのご協力のもと、教育関連施設の建設・寄贈などを行ってまいりました。今年度より、

新たに人材育成支援を実施し、日本とタイの架け橋となる人材の輩出に取り組んでまいりたいと思います。

今年度も総会後の講演会には、駐日タイ王国特命全権大使バンサーン・ブンナーク大使閣下にご多忙の中、ご出席いただき、ご講演いただきました。当協会の活動に対しての大使閣下のお気持ちの表れと感じております。皆さま方の常日頃のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。すとともに、埼玉県とタイ王国の友好関係が益々進展しますよう、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



▲懇親会で握手をかわす大使閣下と原会長

# 奨学支援資金 授与報告

総会での承認を受け、8月16日に、当協会会員で現地滞在者である堀田繁氏に、今回支援が決定した4名の生徒のメラダー・ブンシーさん（ラチャパット・ランパーン大学・メーピン校見習い講師）、ガン・ピラカン君（パーイ・ウイタヤコム校・高校1年）、シリヤー・ノイムンさん（パーイ・ウイタヤコム校・高校1年）、ポンラダー・パヤポンさん（ラーチャプラチャヌグロ校・高校1年）へ奨学支援資金を授与するため、生徒が在籍する各校へ訪問していただきました。



▲左から堀田氏、ジラポン校長、支援生徒のメラダーさん



▲支援生徒のガン君（左から1人目）、シリヤーさん（左から2人目）



▲支援生徒のポンラダーさん（中央）

各学校職員立ち合いのもと、堀田氏より当協会の活動や、支援者・支援内容を説明し、対象者に決定通知書及び奨学支援資金を渡していただきました。

奨学支援資金をお渡しした際、ジラポン校長とメラダーさんは泣いて喜んでくれたそうです。

今回メーピン校のジラポン校長に、学校訪問にあたっての各校への連絡、同行をしていただきました。

各校訪問時に、ジラポン校長が生徒に「タンチャイ・リン・ナ（学業に専念しなさい）、あなたが最初の選ばれた荣誉ある奨学金授与者だよ、その道標をつくれるよう頑張りなさい」と愛ある檄を与えていた姿が印象的でしたとのことでした。

## ▲奨学資金支援決定通知書



## スチャイさん ものづくり人材大使にご就任

当協会の発足当時から、さまざまな面でご協力いただいているスチャイ・ポンパックピアンさんが、このたび経済産業省の委託団体であるHIDA（海外産業人材育成協会）が創設した「ものづくり人材大使」の第1号のひとりとして任命されました。

今回の任命は、タイABK（アジア学生文化協会）・HIDA

## タイ国立タマサート大学東アジア研究所長が 埼玉県庁を訪問

7月20日(水)に、タイ国立タマサート大学東アジア研究所所長のキッティ・プラストスック教授と同研究所の研究員が、埼玉県庁を訪問されました。

今回の訪問は、同研究所がタイ外務省より委託を受け、「タイと日本の地域レベルでの関係・現在の状況と将来の可能性について」調査することを目的として行われました。

主には埼玉県の特にタイに対する国際交流・協力についての情報交換が中心でしたが、キッティ教授より、民間で国際交流活動を行っている団体として、埼玉・タイ王国友好協会への参加依頼があり、萩原事務局長と小高事務局長が出席しました。

萩原事務局長より、当協会の

の前身であるAOTS（海外技術者研修会）同窓会関係者に対して行われ、スチャイさんは同窓会会長を務めています。

スチャイさんには、日本とタイの産業界の架け橋となる人材育成にご期待申し上げます。



▲スチャイさん

## 当協会も取材協力

設立以来の「草の根外交」として、タイ王国への親善訪問や教育関連施設の建設・寄贈、さらに今後人材育成を目的とした奨学支援へ取り組んでいくことを紹介しました。

キッティ教授は、当協会の活動に対して、「国民として大変嬉しいことです」と感謝の言葉を述べられました。



▲キッティ・プラストスック教授(前列中央)、小池国際課長(前列左)、萩原事務局長(前列右)

# 第17回タイ・フェスティバル

タイ王国大使館主催「タイ・フェスティバル2016」が、今年も5月14日(土)・15日(日)の両日、東京代々木公園イベント広場で開催されました。



▲会場で記念撮影をする大使閣下と原会長

当協会の原会長もタイ大使館より開会式への招待を受け、事務局員とともに出席しました。

タイ・フェスティバルは、タイ料理を代表とする食文化を含め、タイの様々な物産や果物、伝統・文化に対する理解を深めるイベントとして毎年開催し、今年は2日間で約36万人が来場しました。

今年のテーマは「Discover Thailand's BEST」として、多様な分野でのタイのBESTを紹介する展示がありました。



▲タイ政府機関とタイ企業のブースが集まったスペース「タイヴィレッジ」のテープカット

## 大使ご夫妻が川越を観光

今年の7月に、バンサーン・ブナーク大使閣下ご夫妻が川越を観光されました。



▲川越まつり会館にて山車を見学される大使閣下ご夫妻

当協会事務局より訪問先等のご紹介をいたしました。大使閣下は、川越まつり会館を見学し、一緒に訪問されたご友人の皆さまと浴衣を着て、蔵造りが並ぶ一番街の通りを散策され、川越名産のさつまいも「川越いも」を使ったお菓子を召し上がり、とても気に入られたご様子でした。後日、当協会宛てに大使閣下より「大変思い出深いものとなりました」とのお礼状をいただきました。



▲ご友人の皆さまと浴衣姿で川越を散策 大使閣下(右から4人目)、大使婦人(右から5人目)

## ダルニー奨学金 本年度の授与者

本年度の新規授与者は、次の3名です(年間1人14,400円で3年間)。

ダルニー奨学金は、経済的貧困のため、教育の機会に恵まれないタイ・ラオス・ベトナムなどの子どもたちの中学生就学を支援する国際教育里親システムです。



タナーポン・ウツパシット

13歳



パリーチャート・ドウチプラム

13歳



ティシャエ・ファングサイ

13歳

●プミポン国王の御誕生日レセプションに出席したときのことを、ふと思ひ出します。来賓の皆さまのプレゼンを聞き、プミポン国王が日タイの友好関係に尽くされ、タイ王国の今日の発展を支えてこられたことに深く感銘を受けました。心より哀悼の意を表します。(H)

●大使ご夫妻の浴衣姿、日本の特に川越に対する思いを感じる事ができました。(O)

編集後記

埼玉・タイ王国友好協会ウェブサイト

<http://www.saitama-thai-fa.ecnet.jp/>

●会員増強にお役立て下さい

会 員 募 集

年会費 法人会員 2万円 問い合わせ TEL:049-247-5428  
個人会員 2千円 FAX:049-246-2118

(武州ガス(株)内)